

最後まで読んでいただきありがとうございます

最後まで読んでいない…なんてことは言わないでくださいね。
(その場合は、ここを読み終わったら最初のページに戻っていただくと嬉しいです)

今回はシートベルトの話です。

車に乗ったとき、皆さんはシートベルトをしていますか？『もちろん！』と言う声が聞きたいところです。

もう一度お聞きします。

運転者さん、シートベルトをして同乗者にシートベルト着用の声かけをしていますか？

同乗者さん、どの席に乗ってもシートベルトをしていますか？お子さんには、チャイルドシートを正しく着用していますか？

警察庁とJAFは、毎年合同でシートベルト着用状況調査を実施しています。この着用率は平成5年以降毎年向上していて、平成27年の着用率(一般道)は、運転者98.4%・助手席94.6%・後部座席35.1%となっています。この数字から言うと、後部座席の着用率は非常に低いことがわかります。

では、後部座席でシートベルトをせず、交通事故に遭ってしまった場合どのような危険があるかと言うと、

●自分自身の大きな被害

前席や天井、ドアや窓などにすさまじい力でたたきつけられる。

※例えば、60 km/hで進んでいる場合、壁に衝突した衝撃は高さ14mのビルから落ちるのと同じ

●車外放出

堅いアスファルトに体をぶついたり、後続車両に轢かれることもあり、事故そのものではなく、二次被害となる。

●前席同乗者への加害

前シートにぶつかることにより、前者がシートとエアバッグに挟まれる。などがあげられます。

衝突したとき、人間が瞬間的に支えられるのは、手を突っ張って50kg、足を踏ん張って100kg位の力で、これをスピードに換算すると約7km/hです。

シートベルトは、万が一の事故時に衝撃を吸収し被害を軽減してくれるとともに、運転手の運転姿勢を保ちハンドル操作が楽になるという利点もあります。また、なにより『これから安全運転するぞ』という交通安全に対する意識を高めることができるので、クルマに乗ったらシートベルトを忘れずに、同乗者にも声かけをお願いします。



発行 平成28年(2016年)2月

編集 士別市交通安全運動推進委員会